● 心電図の文法を学ぶ~不整脈へのアプローチ~

4章

5章

心室で起こる不整脈

心室期外収縮(5段脈)

心室内で正常より早期に起こった興奮の波を**心室期外収縮**と呼びます。**図3-22** の心電図は, **5 心拍ごとに巨大な QRS 群**の振れを観察することができます。R 波と同方向に大きな振れを示すのは, 右室側から起こった期外収縮で, 反対方向の振れを示すのは, 左室側から起こった期外収縮です。これは第Ⅱ誘導で記録された心電図ですから, 正常心電図のR 波の振れと同じ方向に振れているところから, 右室側から起こった**心室期外収縮**と考えられます。



図 3-22 心室期外収縮(5段脈)

患者さんが「脈が飛んだ」あるいは「胸がドキンとした」と訴えるのは、この巨大なQRS群のときではなく、正常心拍に戻ったときです。人によっては、まったく自覚しない場合もあります。 多くは長時間緊張を強いられるようなときや、緊張が解けてホッとしたときなどに起こります。 一度見ると忘れることができない波形ですね。

心室期外収縮(3段脈)

図3-23 の心電図も,前のものと同様に3心拍ごとに巨大なQRS 群が見られます。期外収縮の数が増えてきたので、患者さんは頻繁に動悸を訴えるかもしれません。



心室期外収縮(2段脈・2連発)

図3-24 の心電図は、1心拍ごとに心室期外収縮と正常心電図が交互に見られます。そして、下段の心電図では第3心拍が期外収縮となり、続いてもう1回期外収縮が見られます。これを心室期外収縮の2連発と呼びますが、予後が悪いため要注意です。これは心筋がきわめて緊張状態にあり、心室の十分な回復を待たずに、心室からもう一度期外収縮が起こってしまうという状態です。



図 3-24 心室期外収縮(2段脈・2連発)

一過性心室頻拍

図3-25 の心電図はどうでしょうか? 上段の第7 心拍まで心室期外収縮が起こり、いったん正常に復帰したのですが、中段の第2 心拍で1回、心室期外収縮が起こり、続く3 心拍は正常ですが、再び心室頻拍になり、下段の最後の2 心拍で正常に戻っています。これを心室頻拍と呼びます。幸いこの方は健常者でしたが、これが虚血性心疾患の患者さんに起こったとすれば、即入院治療が必要となります。

